



青少年委員 だより

第80号

令和5年3月16日
発行 / 杉並区教育委員会 事務局
学校支援課
編集 / 杉並区青少年委員協議会
広報部



地域で育てよう 未来を拓く青少年！

自主研修

杉並区放課後等居場所事業者との交流会 令和4年9月2日(金) 杉並区役所中棟6階第4会議室



放課後等居場所事業とは、これまで、区の児童館で小学生が過ごしてきた居場所機能を、小学校内に継承し充実を図るものです。放課後等に利用していない小学校内のスペースを活用し、従前の児童館と同様、室内遊びや外遊び、季節の行事やプログラムなどを行います。

杉並区では、平成29年4月に杉並和泉学園で初めて実施され、令和4年4月の時点では14校で実施されるようになりました。今回、この運営を委託されている事業者と子ども・子育てプラザ、児童館の方々と8つのグループに分かれて懇談を行いました。学校の中に学童クラブ

と放課後等居場所があるので子どもたちの見守りがしやすい、安全に過ごせる、学校内に専用の部屋があり遊び道具などの片付けが必要ないので帰りの時間ギリギリまで遊べる、近くの事業者同士でプログラムを共有していて道具の貸し借りをしているなどのお話を伺いました。居場所事業のスタッフの方々は、広い目で優しく子どもたちに接しているのだなとひしひしと感じました。

一方で、地域の方々の認知度は低いので、どうやって知ってもらおうかが課題だそうです。コロナが落ち着いたら、お祭りなどを実施して、地域の方々と関わりたいたいと話されていました。

3年ぶりの交流会、とても有意義な時間でした。子どもたちにとって居心地のいい居場所が増えていくよう、私たち青少年委員も協力していきたいと思います。(椎野玲子)

実技研修

令和4年9月15日(木) オンライン

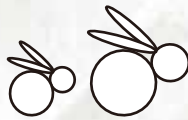
講師：イークル株式会社

CEO イムソネ氏

演題：「青少年委員のための癒しの

アンガーマネジメント

～自分理解と相手理解～



新型コロナウイルス感染拡大の社会全体への影響は大きく、子どもから大人まで誰もが閉塞感や不安を抱えています。できることなら、心から負の感情を取り除き、日々穏やかに生活したいものです。

今回の研修では講師のイムソネさんから負の感情を代表するアンガー即ち怒りへの対処方法(アンガーマネジメント)を学びました。

「たえ怒りの感情が生じてても衝動が抑えられるように、「こうあるべき」という価値観が独りよがりになっていないか、「こうして欲しい」という相手に対する要求水準が高すぎないか、「こうなりたい」という願望に固執していないかを思考する訓練が重要です。

頭で理解はしても実行に移すのは難しいところですが、「アンガーマネジメントは才能ではありません。練習すればするだけ上手になります」という先生の言葉を信じて、習得したいと思えます。

研修はリモートでしたが、事前アンケートやデジタル技術により双方向に演習が進み、あつという間の有意義な2時間でした。(新留敬子)

ヨン2022

がり・その先へ

計画です。大切にしたい教育として「みんなのしあわ

令和3年11月、「杉並区教育ビジョン2022」が策定されました。令和4年度から概ね10年程度を期間とした新しい杉並区教育振興基本

青少年委員どうして学ぶ

ブロック別定例会

令和4年7月14日(木)・10月20日(木)

青少年委員の定例的な会議は、コロナ禍でブロック（3つの地区）別に集まることが増えました。今年度は新しい教育ビジョンについて理解を深め、委員一人ひとりが実践に活かす手がかりを得るために、7月と10月の定例会でブロックの委員どうして意見を交わしながら学び、共に考えてきました。

自分たちにできることは？（青少年委員・ブロック別定例会）



今回は杉並区教育ビジョン2022の「一人ひとりが教育の当事者として心がける5つの視点」を取り入れて、地教連（地域教育連絡協議会）や地教推（地域教育推進協議会）などで何ができるかを話し合いました。

今後も、10月のブロック別定例会、11月10日（木）の委員研修など、杉並区教育ビジョン2022について考え、交流する機会を予定しています。

地域で子どもの育ちを見守る委員として、活動を通して、自分なりの考えをもちたり、他者の考えを受け入れたりなどして、理解を深めていきます。

会の最後には、一人ひとりが考えたこと、感じたことを発表、共有しました。

一人ひとりが教育の当事者として心がける視点

- 1 子どもの思いを尊重する
- 2 ちがいを受け入れる
- 3 対話を大切にする
- 4 学びの成果を贈り合う
- 5 社会を創る当事者として考える

～「杉並区教育ビジョン2022」より～

原点に戻って考えてみたい。

学校と一緒に
取り組んでいきたい。

地教連にどう落とし込むかは、
引き続き考えていく必要がある。

大人の連携、横のつながりを大切に
するためにも子どもだけでなく大人
も気を付けたい。

自分自身が常に心掛けたい。

難しい・・・

今の活動は5つの視点を意識
してできていると思う。



杉並区教育委員会ホームページより：7月ブロック別定例会の様子



教育委員会のホームページでは、青少年委員の活動をはじめ、杉並区の教育活動を深く知ることができます。こちらの二次元コードからどうぞ。

各中学校区地域で行っている地域教育連絡協議会（地教連：青少年委員が事務局を務めています）において教育ビジョンをテーマにして学んだり話し合ったりしました。そのうちの4つの取組をご紹介します。



高井戸中学校区

令和4年12月12日(月)

「みんなのしあわせを創る教育」
～地域・家庭・学校の協働の
取り組みを通して～

教育ビジョンについて、どなたにも分かり易く、杉並区教育委員の久保田 福美さんにお話しいただきました。NHKの朝ドラを交え、幸せを呼ぶ「〇(わ)」は「ん」につながるの話では、歴代タイトルをバックに熱く語られました。「幸せ」という文字は「辛い」に似ているというところでは、確かに!!と、納得でした。どんなに辛くとももう少し頑張れば幸せになれるとのこと、一生懸命と思いやりの心を根付かせ、幸せの花を咲かせたいと思いました。

(奥山 美奈子)



西宮中学校区

令和5年1月31日(火)

教育ビジョン2022「みんなの
しあわせを創る杉並の教育」
西宮中学校・宮前図書館改築計画

講師に社会教育主事の中曽根 聡さんと学校整備課教育施設計画推進担当係長の安川 卓弘さんを招いて開催しました。

新しい教育ビジョンと校舎の改築は、日頃から子どもたちと関わりの深い地域の方々にとって関心の高いテーマです。

子どもたちがワクワクする気持ちを大切にして寄り添う大人でありたい、そのような思いを改めて共有する場になりました。

(新留 敬子)

教育ビジ

まなび・つな

教育ビジョンの策定に 携わった方々と学ぶ

青少年委員「委員研修」

令和4年11月10日(木) 杉並区役所第4会議室

教育ビジョン策定の経過や社会的背景、どのような思いや考えが込められているかを、杉並区教育振興基本計画審議会（以下、審議会）で策定に携わった方々からお話を伺いました。



牧野さん

世を創る杉並の教育」を掲げたこのビジョンは、杉並の教育の基本的な考え方を示したものであります。私たち青少年委員も教育の当事者として教育ビジョンについて学び、地域の方々や子どもたちとも一緒に考える機会をつくってまいりました。

約10年ぶりに杉並区の教育ビジョンが策定され、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」が掲げられました。子どもたちの未来に大きく影響する教育は社会にとって重要で、私たち大人にとっても大きな関心事です。今回の委員研修では審議会会長を務められた東京大学大学院教授の牧野篤さんと、前青少年委員協議会会長であり審議会委員だった増田由巳子さんから、その基本的な考え方や青少年委員の活動とどう結びつくかについての講義を受け、グループワークで理解を深めました。

先行きを見通せない今の時代、子どもたちは生きる力、即ち未来を切り拓く力を備える必要があります。それと同時に大人も「人生はいろいろあるけど、悪くないな」と思える環境を整える責任があります。様々な人が集い、互いに受け入れ合う地域の中での体験活動の大切さを再認識しました。

また、学びのプロセスとしてAAR循環「楽しいことがやってくる」と思っでわくわくする(Anticipation)→やってみる(Action)→振り返り(Reflection)→どう取り入れていけるかにも興味が湧きました。

教育ビジョン2022の先に見える「誰もが社会の創り手として共に生きる社会」、さらには、「誰もが自分らしく生きることが出来る『みんなが創るまち』」の実現が楽しみになった研修でした。



増田さん

(新留 敬子)



地域の方々や子どもたちと学ぶ 地域教育連絡協議会の取組から



大宮中学校区

令和4年7月11日(月)
杉並区教育ビジョン2022と
地教連について

最初にアイスブレイクとしてネイチャーゲームを行って交流し、その後に社会教育主事の中曽根 聡さんを講師に迎えて教育ビジョン2022の説明をしていただきました。地域の大人として心がけること、また地教連とは？青少年育成委員会との違いは？などについて、あらためて共有することができました。
(中尾 由加子)



井荻中学校区

令和4年10月28日(金)
「みんなのしあわせを創る
杉並の教育」

前半は中学生向けに、後半は地教連会員と一般参加者向けに、審議会会長を務めた牧野 篤さんを講師に教育ビジョンについての講演会を行いました。中学生には少し難しい内容かな？と感じる大人が多い中、生徒からは「哲学っぽかったけど人生について深く考え直した」「人としての考え方や恋というものの説明が少し難しかったが、これからの自分にとってためになりそうな話だった」という感想が多数出ており、中学生が教育ビジョンをもとに自分自身の学びを考える良い機会になりました。
(芦 秋子)

第13回すぎなみ舞祭

令和4年10月16日(日)
下高井戸おおぞら公園



晴天のもと、この2年コロナ禍という事もあり、縮小したり、中止を余儀なくされたりと思うように開催出来なかった「すぎなみ舞祭」が帰ってきました。舞祭大会に24チーム、オープンステージに17チームとたくさんのチームが参加してくれました。内容も盛りだくさんで、大盛況のうちに、「第13回すぎなみ舞祭」は終了しました。

(小林 朱実)



1 ブロック研修

令和4年10月13日(木)
環状七号線地下調節池見学



環状7号線の地下40m程の所に、神田川から妙正寺川をつなげる全長4.5km・内径12.5mのトンネルがあるのをご存知ですか？自分の手先さえも見えない暗闇の中で、水の匂いと静かな流れの音だけが聞こえます。この場所が都市型水害時の要で、大雨の時には川から直接水を引き込み満杯になるなど想像もつきません。そしてこの都市の最初の治水を考えたのが徳川家康だなんて、感慨深いですね！

(土佐 愛)

杉並区中学校 対抗駅伝大会 2022

令和4年12月11日(日)
都立和田堀公園陸上競技場
(済美山運動場)



杉並区内の中学校24校、南相馬市より1チームが参加しました。開会の挨拶は岸本区長です。一緒に走りとなる程、天候に恵まれて、ランニングシューズを持ってくれば良かったと冒頭で話されていました。オープニングは井荻中と中瀬中の吹奏楽部の“風になりたい”と“RPG”の演奏です。とてもリズムカルで元気の出る演奏でした。アナウンスは泉南中の演劇部。わかりやすくハキハキと、走っている中学生の様子を実況してくれました。

優勝は女子も男子も大宮中でした。2位を大きく引き離しての1位です。喜びいっぱい両手を挙げてゴールテープを切っていました。南相馬のチームも大健闘です。青少年委員は、当日は会場の出入口の管理を担当しました。

(会田 洋子)

2 ブロック研修

令和4年9月8日(木)
環状七号線地下調節池見学



コロナ禍で中止されていたブロック研修、3年ぶりに開催することができました。

今回は杉並区内にある「神田川・環状7号線地下調節池」を見学。近年の台風やゲリラ豪雨の際、この調節池があるお陰で地域の浸水被害軽減に大きな効果を発揮しているそうです。地下にある内径12.5mの巨大トンネルは明かりもなく、ひんやりとしていて恐怖すら感じる異空間でした。このような施設があることで安心・安全ではありますが、一人ひとりの意識や備えの重要性を感じました。

(安部 音羽)



自主研修

令和5年1月19日(木)
国立国会図書館
国際子ども図書館



自主研修で国際子ども図書館を訪問し、多様な児童書に触れて来ました。デジタル化が進み、読書もスマホやタブレットでできてしまう時代になりましたが、紙の本のぬくもりはより深く子どもたちの胸に刻むものがあるのではないかと思います。この研修で読書活動が子どもに与えるいい影響を再認識し、読書を通じた地域活動の推進を心に決めた委員もいたのではないのでしょうか。読書の素晴らしさを再認識できた有意義な研修となりました。

(渡辺 春香)



3 ブロック研修

令和4年12月7日(水)
高円寺学園見学



ブロック内の他校を知る活動として、「高円寺学園」を見学しました。新しい施設は随所に新しいアイデアやネット環境が盛り込まれ、遠くに見える富士山にも歓迎されているようでした。

この夏、仙台育英高校野球部・須江監督の「青春って、すごく密なので～」は、心を打ちました。青春と言うには、些か年齢的には???な3ブロックメンバーではありますが、新しい教育ビジョンと共に、お互いの気持ちは「密」に、青春しているような「しあわせ」感のある委員活動を心掛けたいと思います。

(宮内 康子)